

令和２年度 学校評価を受けて（１学期）

<結果からうかがえる成果>

- 「みんなで何かをするのは楽しい」と感じる児童が８割近く、「先生は授業内容を一生懸命教えてくれる」と感じる児童は９割近くいる。「わが子は、学校生活を楽しんでおり、友人関係も良好である」と感じる保護者が５割近く、「学校は、楽しい」と感じる児童も６割であった。６月からの学校再開後、児童が学校での学習や活動を喜んでいる様子がうかがえる。
- 「道徳の授業で心を見つめさせ、生き方について考えさせている」教職員が８割近くいる。授業での交流などが制限される中で、「道徳の時間に考えを深めることができる」児童も５割いることから、教職員が工夫して授業を行っている様子がうかがえる。
- 「教職員定時退庁日をはじめとする働き方改革の取り組みを理解できる」保護者が５割を超え、「わが子を、中藤小学校に通わせてよかった」と感じる保護者も５割程度いる。教職員の現状について理解していただいた上で、本校の教育についての取り組みを評価していただいている。

<結果からうかがえる課題>

- 「宿題の他に、進んで勉強や自学をしている」という児童は３割であった。臨時休業中の頃から、どの学年でも自主学習に取り組むように指導してきた。しかし、「自分は児童が主体的に家庭学習に取り組めるような指導をしている」教職員が１割を下回っていることから、今はこれまでの決められたドリル学習をこなす家庭学習からの転換期であると考え、今後、教師自身が、家庭での学びにどう取り組ませるかを考えていく必要がある。
- 「なかふじスマートルールを自分で決め、それを守っている」児童は５割いる。臨時休業中、家庭での生活スタイルが変わっても、児童自身に自分を律する気持ちは芽生えている。しかし、学年が上がるにつれてよく当てはまると答える児童の割合は下がっているため、「学年に応じて、情報モラルやネット利用について指導し、児童の意識向上に努める」教職員の割合（２割）を増やしたい。